学校番号	２０２

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学演習β	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	「新課程キートレーニング 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は主に，問題演習を行います。授業で使うノートを用意してください。
・授業に向けて、予習を行ってください。授業は「予習してきた問題の解説を聞く→解説を基に自分で問題を再度解く→確認をする」という流れで行います。問題を再度解く際には，自ら考え、周りの人と協働で考える活動をします。
・家庭学習では，予習として、問題集の問題をまず自分で解いてみよう。途中式や考え方も書いてください。その後，必ず答え合わせをしてください。間違った問題は放っておくのではなく，必ずノートなどにやり直しをしましょう。自力で解けるまで，何度でもやり直してください。
・考査ごとを目安に問題集などの課題を課します。しっかり学習し，提出してください。

2　学習の到達目標

数学ⅠⅡABC の内容を理解し、各分野の問題の解法を理解し、自ら解答できるようになるまで、反復して、学習に取り組む態度を養い、次の資質・能力を身に付ける。
（１）　数学ⅠⅡABC の内容についての基本的な概念や原理や法則を理解し、事象を数学的に捉え、表現、処理する技能を身に付ける。
（２）　数学ⅠⅡABC の内容について、事象を数学的な考え方で分析したり、表現する。
（３）　数学的な考え方のよさに気づき、自らの思考過程を振り返りながら、粘り強く問題解決に取り組む。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学ⅠⅡABC の内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。また事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学ⅠⅡABC の内容における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学ⅠⅡABC の内容の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	整式とその計算	a: 各学習内容における基礎基本となる公式を理解し、問題を解答することができる。 b: 各学習内容における応用問題や発展問題を解答するため、求め方の過程を理解し、表現することができる。 c: 受験のための問題演習に対して、主体的に問題に取り組もうとする態度がある。また、反復して問題に取り組む態度がある。	定期考査	定期考査 問題集	観察 ワーク シート
		式の値				
		1次方程式と1次不等式				
		命題と集合				
	2次関数	2次関数とグラフ				
		2次関数の最大・最小				
		2次関数と2次不等式				
		2次関数のグラフとx軸の共有店				
	確率	場合の数・順列				
		組合せ				
		確率				
	整数の性質	図形の性質				
		約数と倍数				
		不定方程式				
		整数の種々の問題				
2学期	様々な関数	三角関数	a: 各学習内容における基礎基本となる公式を理解し、問題を解答することができる。 b: 各学習内容における応用問題や発展問題を解答するため、求め方の過程を理解し、表現することができる。 c: 受験のための問題演習に対して、主体的に問題に取り組もうとする態度がある。また、反復して問題に取り組む態度がある。	定期考査	定期考査 問題集	観察 ワーク シート
		指数関数・対数関数				
	微分法・積分法	導関数と接続				
		関数の値の変化				
		微分法の応用				
		不定積分・定積分				
		面積				
	ベクトル	ベクトル				
		ベクトルと平面図形				
		ベクトルと空間図形				
3学期	数列・統計的な推測	等差数列・等比数列	a: 各学習内容における基礎基本となる公式を理解し、問題を解答することができる。 b: 各学習内容における応用問題や発展問題を	定期考査	定期考査 問題集	観察 ワーク シート
		種々の数列				
		漸化式と数列				
		数学的帰納法、数列の応用				
		統計的な推測				

			解答するため、求め方の過程を理解し、表現することができる。 c: 受験のための問題演習に対して、主体的に問題に取り組もうとする態度がある。また、反復して問題に取り組む態度がある。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度